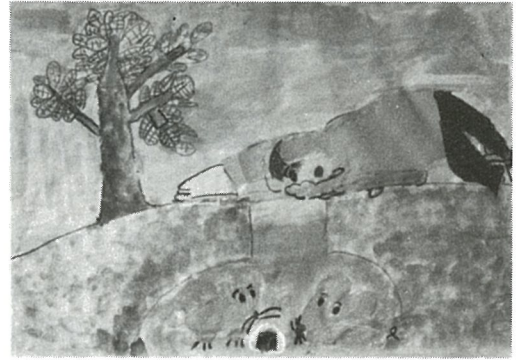


かさじぞう

3年 伊橋 恭平くん
雪がふっている様子を表現するのに苦労しました。



おむすびころりん

2年 行方 重典くん
おじいさんがねずみと話しているように描くのが大変でした。



芝山仁王尊三重塔



6年 中川 芳一くん

数百年もの間、風雨に耐えてきた古い三重の塔、重みのある時代を感じさせるように仕上げました。



社



5年 増島みどりさん

屋根のぬり方に気をつけました。

ひかり歌壇

塗りたての畔這い上る蛙の子いまだ尻尾を付けしままなり

大木静波子(篠本二区)

消費税迫る期日を盾にとり売り上げ計る商魂たくまし

伊藤 定男(尾垂五区)

北国の冬を働き来たる娘が牛飼の日に淡々と云う

藤代 敏子(宮内)

春浅き燈に透き通る雨蛙ガラスにしかと貼り付き登る

越川 福子(宮内)

裸木をゆらし鳴き交ふ椋鳥の万羽の大群位置かえて翔ぶ

伊藤 鏡子(虫生)

夏去りて冬去り三年足萎えの夫癒えずして春の又くる

椎名 静子(二又)

云ひ過ぎし言葉心に繰り返し眠れぬ夜半に雨の音聞く

土屋 好(虫生)

道の辺の南なだりの陽に群れて咲く犬ふぐり藍ちりばむる

竹内 紀葉(篠原)